

洗足学園中学校入試問題説明会

国語科解説

この解説は12月16日に行われた「入試問題説明会」の国語問題の解説です。

国語問題の出題意図

国語科が入試問題の出題を通して意図していることは、「入学後に必要な国語能力を身に付けていただく」ということです。日本語という母語は私たちの思考活動の根幹をなすものであり、その能力を高めることはすべての教科、あるいは生活全般において必要なことです。つまり、国語の能力の高まりは他教科の学習、さらにはそのほか生活の諸方面に影響を及ぼすものと考えています。

国語の能力を高めるためには「筆者の意見を正確に読み取る力」「論理的に考える力」「適切な言葉づかいで話したり、文章を作成したりする力」「正しい漢字、慣用句などを使う基礎的言語力」などが必要です。

本校の入試を、それらを習得するきっかけにさせていただきたいと思います。

国語問題の概要

本校の国語科の試験はここ数年同じ形で出題しています。

問題は大きく二つに分かれ、説明文と物語文から出題しています。

説明文は小学生でもわかりやすい話題の文章を選んでいきます。また、物語文は小学生やそれに近い年齢の人物が登場する文章をなるべく選ぶようにしています。

それぞれの問題には8つ程度の小問があり、その中に文章形式で解答する記述問題が3問程度あります。

また漢字の書き取り、慣用句、ことわざなどの成句を問う問題を必ず出題しています。

基本的な注意点

では、具体的な解答の方法についてお話しいたします。

まず解答の大前提として、文字を丁寧に書いてください（上手でなくてもいいのです）。

解答の字数を指定する問題が出たときは、句読点を一字として数えるのか数えないのかを確認してください。

解答の行数を指定する問題は、1行の欄に2行以上書かないようにしてください。

なお、行数で指定されている問題は、字数の制限はありませんが、1行が25～30字程度になるように出題しています。つまり、2行で書く問題では50～60字程度の解答が求められていることになります。

記述問題について

本校の国語の問題の特徴の一つである記述問題についてまとめておきます。

記述問題では文章を短くまとめる力を試しています。

解答する際には、まずは解答に必要な内容（要素）を考えてみましょう。多くは本文のなかにそれはあります。

次にそれらをつないで文にするのですが、その際に無理のない日本語になっていることが大切です。主語と述語の関係や修飾語が適切に使われているのかを考えましょう。

そして、何よりも大切なのは質問されていることに対して答えることです。理由が問われているのか、部分の意味が問われているのかをはっきりと把握してから答えを作りましょう。

以上の点を踏まえて記述問題の解き方をまとめると、必要な要素を書き洩らさないこと、自然な文にしあげること、答えの型を確認して質問にあった答え方をすることなどが大切な点になります。

記述問題の解答は本文の言葉をつぎはぎでつなげた意味が通りにくい文になりがちです。そのことに受験生自身では気づきにくいものです。過去問題などの練習においては、受験生の書いた答案を読んで、通りの良い文になっているのかどうかをアドバイスをしていただくと幸いです。

今回の出題文

今回の出題文は三浦準司『人間はだまされる フェイクニュースを見分けるには』（理論社、2017年6月）という本から一部分を抜粋して作りました。

新聞や放送などといった報道機関が作るニュースが、実は現実とは同じものでないということを描いた文章です。もともと中学生程度の読者を想定した文章です。

小学生で習わない漢字にはヨミガナを振ります。今回はありませんが、読解する上で支障となる小学校で習わない難しい語には注を付けます。

問一について

「ステレオタイプ」という言葉の意味を聞いています。この言葉はおそらく小学生では習わない語であり、私たちもその知識を求めてはいません。前後関係から考えて意味を考えます。

国語の問題には原則として知識として知っていなければできない問題というは出題しません（今回は出題していませんが、物語文の中で出題される成句一慣用句やことわざーの問題は知識を要求します）。解答の鍵は必ず本文の中にあります。

ここでは「思い込み」と述べているアを選びます。

問二について

内容を考える前にまず、設問の形から解答の型を考えます。

「どのようなことが必要であると述べられていますか」という問いなので、それに対する解答の文末は「ということ」です。

この問題では「本当にしっかり考える」には何が必要なかが問われています。

傍線部(2)の直前にしっかり考えるために邪魔になるのはステレオタイプであると述べられています。ステレオタイプが何であるのかは問一で考えました。ここでは思い込みや単純化・簡略化という意味で使われています。

そしてしっかり考えるために必要なことについては22行目から始まる「どうすればいいのだろうか」以下に述べられています。

1. 自分の考えにこだわり過ぎない
2. 新しい経験や情報を取り込む
3. 考え方を修正する柔軟さ

といったことが求められています。それらをまとめると答えになります。

解答は「①ものごとを簡略化せず、②自分の考えにこだわりすぎないで、③新しい経験や情報を取り込みながら④考え方を修正していくこと。」となります。

なお採点はここに示した4つの要素の内容が書かれていることを、加点方式でおこなっています。ただし、文として完成していないもの、つまり書きかけのものは無得点です。また、要素に不備があったり、逆の意味で使ったりしているものは程度によって減点があります。

問三について

文章の中では自分の言いたいことをいうために様々な「たとえ」が使われます。この問題では文中の「たとえ」がどのような目的で使われているのかを考えます。

日本にやってきたスペイン人記者という設定は何のためになされたのでしょうか。

このたとえ話の中では、スペイン人の記者はたった一人で日本を取材します。取材の方法も極めて限られており、ニュース作成はその少ない情報の中で行われることになります。

つまり、このスペイン人記者はたまたま取材ができた内容をニュースとして書き、スペインに送ることになります。

したがって、この話で筆者が言いたいことは、我々がニュースとして受け取っているのは少ない記者によって偶然捉えられたものであり、報道されていることはすべての事実ではないということなのです。

解答は「①ニュースとして報道されている情報は、②少数のジャーナリストによって③選ばれ、④まとめられているということ。」などになります。

4つの要素ごとに採点して、文の整合性などから得点を決めます。

問四について

問題にある「片思い」というのは比喩的表現で、一方的に相手を思うことです。相手から自分への思いがないことが片思いの特徴です。この文章ではそれを日本とアメリカの国際関係にたとえています。

アメリカに行ってみると日本は多くの国の中の一つに過ぎず、多くのアメリカ人は日本に興味がないことが分かります。

アメリカ人は日本人が思うほど日本に関心を持っていないのです。

以上から、選択肢を見るとアメリカと日本とがお互いに対する関心をどのように考えているのかを述べたウが正解になります。

問五について

設問の「何をどのように錯覚させるのですか」とあります。よって解答は「○○を□□のように錯覚させる。」とまとめればよいことになります。

ちなみに「錯覚」とは「本当はそうではないものをあたかも別のもののように考えてしまうこと」です。ここでの内容は日米の相互に対する関心の違いのことです。これは問四で考えた「片思い」の状態と同じことを意味することになります。

そこで、「①アメリカが日本に対して持っている興味と、②日本がアメリカに対する興味が③同じくらいである④と錯覚させる。」といった答えを期待します。

前の問題が次の設問を解くためのヒントになることがあります。文章の構造を考えましょう。

問六について

つなぎ言葉（接続詞）を選ぶ問題です。この種の問題では空欄と選択肢の数が同じです。前後の関係を考えて記号を選びましょう。

問七について

漢字の書き取り問題は説明文の中で出題することになっています。小学校で習う漢字の中から出題しています。楷書で書きましょう。学校の国語の教科書の字体を目安にしてください。一画ずつを分けて書くのが原則です。

問八について

本文の内容に合うものを選ぶ問題が必ずこの位置にあります。

一般的なアドバイスですが、本文に書かれていることを基準にして考えます。内容上は矛盾がないように見えても本文に書かれていないことは選ばないようにしてください。

アは「貧困地区は危険」はステレオタイプの中でも持っておきたい知識の例として挙げられています。

イは「偏見はただちになくさなくてはならない」とまでは述べられていないので選べません。

ウは国際的な関係が深い特派員は人数が多いから情報を集めなくてはならないのではなく、関心が高いため多くの特派員が送り込まれるので理由と結果が逆です。

エは91行目以降に書かれていることです。これを正解とします。

最後に

以上で説明を終わります。

受験は皆さんにとってとても大変な試練だと思います。

しかし、いま皆さんが取り組んでいる勉強は、日本語の能力を鍛え、物事を考える力を伸ばすためにとても役に立つことです。ぜひ、しっかりと勉強してください。

そして、できればその成果を洗足学園の生徒となって学園の中で生かしてください。